



西日本区ホームページ・<http://www.ys-west.or.jp/>
 西日本区中部ホームページ・<http://www.ys-chubu.jp/>

2014年6月号

「主題」

- 国際会長 : 全ての世界に出て行こう。
 アジア地域会長 : 未来を始めよう、いますぐに。
 西日本区理事 : 志をもって例会に参加し、学びの機会を持ちましょう。
 中部部長 : 長所を活かして生き生きと。
 プラザクラブ会長 : 5年後のプラザの為に今何を。
 強調月間・活動 : 【評価・計画 クラブが発展するために計画の進捗管理を行い、成功と失敗の経験と知識をきちんと次期に引き継ぎましょう！】

6月例会および今後の予定案内

【6月第1例会 (POM プラザ創立記念月)】
 日時: 6月22日(日) - 23日(月)・集合16:00
 場所: 名古屋市休養温泉「松ヶ島」
 桑名市長島町松ヶ島 700 番地の 12
 TEL. 0594-42-3330
 ◆名古屋市の国民健康被保険者証の原本(コピー不可)および愛知県後期高齢者医療被保険者証の原本(コピー不可)を提示すれば、1000円の助成制度がございますので、該当される方は当日持参願います。
 【6月第2例会】
 日時: 6月26日(木)・18:45-
 場所: 名古屋YMCA会議室
 内容: 次月例会の打ち合わせ
 出席義務者: 役員(島崎・櫛田・後藤)
 7月担当者(後藤・島崎)
 8月担当者(大島・高田)
 【今後の予定】
 1. 三陸旅行
 日時: 6月1日(日) - 3日(火)
 2. 老人ホーム音楽慰問
 日時: 6月8日(日)・集合時間(小澤邸)・11:30
 場所: アミーユ豊山
 3. 西日本区大会
 日時: 6月14日(土) - 15日(日)
 4. 7月第1例会
 日時: 7月10日(木)・18:45-
 場所: 名古屋YMCA会議室

5月例会およびその他活動報告

(敬称略)

役 員	会 員 氏 名	出 席 者				
		1	2	①②③④⑤⑥⑦		
	大島 孝三郎	○				
	小澤 幸男					
書記	櫛田 守隆	○	○			
会計	後藤 猛	○	○			
会長	島崎 正剛	○	○			
	鈴木 誉三	○	○			
直前会長	高田 廣	○	○			
連絡主事	西野 真希	○	○			
ゲスト						
諸活動						
出席率(%)					87.5	
クラブファンド(円) ・ 当月／累計					8000	
7月号寄稿者・島崎(1600-2000字程度)						
8月号・鈴木(高田)／9月号・大島／10月号・後藤						

【2013-14年度クラブ役員】メネット連絡員・島崎正剛/副会長. プラザファンド・後藤猛/プリテン委員長. メール委員・櫛田守隆

EMC. BF. EF. JWF・高田廣/YMCA サービス. IBC. YEEP・小澤幸男/CS. TOF・鈴木誉三/広報事業・大島孝三郎/連絡主事・西野真希

5 月第 1 例会報告

日時:5 月 8 日(木)・18:45-20:15

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 卓話「防災に学ぶ」

講師:高田 廣



卓話は、まず災害に備えて非常食・飲料水および持ち出し品の用意をする(詳細は下段に記載)、次に地域の講習会で学んだことを話された。(別記「防災に学ぶ」)

日常準備しておく非常用品

(1) 非常食および飲料水(ローリングストック法)

ローリングストックとは、今までのように特定の非常食を長期間ストックするのではなく、定期的に非常用の食品を食べて、食べた分を買い足していくこと。最初に 4 日分 12 食を用意した場合、毎月 1 食分を食べて補充すると、最初に用意した非常食は 1 年ですべて入れ替わることになる。

(2) 非常時物品

- ・懐中電灯(電池の予備)またはローソク(マッチ・ライター)
- ・携帯ラジオ(電源等電池)
- ・消火器(有効期限の確認)
- ・避難用ヘルメット
- ・靴(底の厚いスニーカー)
- ・軍手
- ・日常的に服用している薬(常備薬・お薬手帳)
- ・その他貴重品

2. 三陸旅行について・高田

(1) 6 月 1 日小牧空港出発便の時間は、出発日 1 週間前に決定される。旅行社から連絡あり次第参加者に通知する。

(2) なお、現在小牧空港の駐車場が整備工事のため、駐車台数が制限されます。クルマの方は、空港外の民間駐車場利用も考慮して時間に余裕をもってお出かけ下さい。

3. ワイズ通信・櫛田

4 月度 32 件、一覧表配布

4. YMCA 連絡事項・西野

前名古屋 YMCA 加藤総主事、3 月 31 日付で定年退職。

5 月第 2 例会報告

日時:5 月 22 日(木)・18:45-19:45

場所:名古屋 YMCA 会議室

1. 確認事項・島崎

・6/1-3・三陸旅行

参加:大島、櫛田、後藤、島崎、高田

・6/8・老人ホーム音楽慰問

参加:大島、小澤、後藤、鈴木、高田

・6/14-15・西日本区大会

参加:大島、島崎、鈴木、高田

・6/22-23・名古屋市休養温泉ホーム「松ヶ島」

参加:大島、小澤、櫛田、後藤、島崎、鈴木、高田

2. 連絡事項

(1) 櫛田

a. 中部部長の依頼事項

今期の各クラブ活動報告(原稿・写真)は 7 月・日和田キャンプ場準備作業、10 月・陶芸教室、12 月・老人ホーム音楽慰問とする。

b. 第 3 回陶芸教室開催予定

7 月 19 日(土)、佐渡山工房、櫛田、後藤、島崎参加。費用は 1 クール(作陶・施釉・焼き上げ)@5000/人)過去参加された他クラブの方に案内する。

(2) 高田

a. 三陸旅行

6 月 1 日出発時間が決定、集合時間は 14:00(県営名古屋空港出発 14:45)

b. 名古屋市休養温泉ホーム「松ヶ島」は、高齢者の割引制度があるので幹事は確認のこと。

*名古屋市在住で 60 歳以上の方は健康保険証を持参すれば割引になります。愛知県内の 75 歳以上の方も同じ扱いです。

(3) 後藤

6 月 22 日の第 1 例会(POM. 松ヶ島)で今年度決算書及び次期年間計画書を提示する。

(4) 西野

6 月に街頭募金実施予定、日時・場所は未定。

防災に学ぶ

先般、我が町「蟹江町防災減災の会」主催の「防災に学ぶ」に出席した。講師は群馬大学工学研究院の片田敏孝教授による「防災教育は地域に住むお作法」と題しての講演を聞き、最近の大規模災害について学んだ。

最初に犠牲者ゼロの地域づくりについて考える。最近多発する自然災害、既往最大を超える大規模水害が

多発している。昨年 11 月フィリピンに上陸した台風 30 号は、895hPa と上陸した台風としては観測史上最大規模、最大瞬間風速 87.5 m/s で高潮による甚大被害が発生した。地球温暖化で巨大化する台風、今後 850hPa 級の台風も無いとはいえない、「想定外」が想定外ではなくなる時代である。気候変動に伴い想定される、海面水位の上昇、高潮リスクの増大化に対して、既往降雨水害を念頭に置いた危機管理対応能力が求められる。新たな気象条件に基づく対策が必要だ。

東日本大震災で多くの子供達が助かった「釜石の奇跡」で注目される釜石市で、震災前から児童生徒に防災教育をされた片田教授の話として、それぞれが避難して命を守る、「津波てんでんこ」(注)と言う東北三陸地方の言葉に触れ「家族の絆を切って逃げる事、一人一人が自分の命に責任を持つ事」。信頼で結び合った時に本当にできると説明、「てんでんこ」出来る家庭になれるよう事前に相談をして信頼し合ってほしい、と呼びかけた。子供達への防災教育については「その地域に住むお作法」と指摘、怖いぞとおどして教えるのではなく、不意に起こる災いに立ち向かう心を育むことが大事と話された。

我が東海地方、愛知県西部では南海トラフによる地震もさる事ながら、毎年発生する台風災害が心配だ。片田教授の話によると三河湾岸では地震による津波は三陸海岸とは違い、湾が浅いので東日本大震災のような大津波はないと想定される。しかし怖いのは台風による高潮災害の様だ。海拔ゼロメートル地帯の名古屋西部は河川を遡り、堤防が決壊するおそれがある。浸水するとなかなか水が引かないといった現象が起こる。55 年前の伊勢湾台風を体験した人は、記憶に深く残っている。

想定外を生き抜く力を育む防災教育「避難三原則」。釜石の津波防災教育で伝えてきた事、大いなる自然の営みに畏敬の念を持ち、行政に委ねることなく、自ら命を守ることに主体的たれ、①想定にとらわれるな ②最善を尽くせ ③率先避難者たれ、正常化の偏見を打ち破る・・・非常事態時、人は避難すると言う意思決定が出来ない、いざと言う時は先ず自分が率先して避難する事、その姿を見て他人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことが可能になる。

(注:「てんでんこ」とは「各自」「めいめい」を意味する名詞。東北地方の方言。「津波てんでんこ」を防災教訓として解釈すると、それぞれ「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自てんでばらばらに一人で高台へ逃げろ」「自分の命は自分で守れ」になる。また、「自分自身は助かり他人を助けられなかったとしてもそれを非難しない」という不文律でもある。(Wikipedia より))

(高田 廣)

佐渡山工房にて

グランパスの荒川さん、服部さんにわがクラブの後藤、私の 4 人が、昨年 10 月粘土を練って成形した器を素焼きしてもらい、11 月にみんなで施釉(せゆう)、5 月 3 日に本焼きの火入れ、5 日は蔵出しに酸洗いで完成。この日は、作品を作った連中、佐渡山先生のわが高校同期生や彼の現役時代のお仲間が横浜から大勢押しかけた。

佐渡山先生は横浜に住み、親から引き継いだ土岐の工房に月 1 回来て、趣味の作陶を楽しんでいます。1 人で窯一杯の数を作るには日にちが掛かるため、われわれも窯を埋めるため、下手な物をせっせと作っております。そんなことで粘土練から出来上がりまで約半年を要することもありご迷惑を掛けしますが、気を長く持ち、またのご参加をお待ちしております。



(後列左から 3 作品服部作、2 作品荒川作・前列左から 3 作品櫛田作、1 作品後藤作)



(作品を前に荒川、服部ご夫妻と先生とその弟子)

聖書の言葉

【どうして、人を教えながら、自分自身を教えないのですか。盗むなど説きながら、自分は盗むのですか。(ローマ人への手紙 2.21)】

【当時のユダヤ人は特別な意識を持ち、自分たちこそ信仰において道徳においてもいちばん優れた民族であると言いつつ、実生活ではまことに偽善的であった。パウロはこれに警告を発しているのである。人は他人

には厳しいことを言えても、さて自分のこととなると甘くなる傾向がある。他人に教えるなら、自分にも厳しく教えなさいとパウロは言っているのである。教えるより、教えられる方が世の中には多い。見方を変えれば、自分が教えられる材料には事欠かないのが、この世である。(賀来周一著「実用 聖書名言録」より)】

【5月19日付中日新聞は「米、自動車で無理難題 TPP 日本向け開発努力せず」の見出しで「欧州車は日本市場に合わせ車種の 66.4%がエコカー減税の認証を受け、2013 年度は過去最高の販売を記録したが、米国車は認証対象車がゼロ。日本はこうした事実を示し、欧州のように日本人好みの低燃費車をつくるようにと、メーカーの努力不足を指摘するも、米国は聞く耳を持たない」ざっとこんな内容の記事が載る。『日本の政府関係者は「米通商代表部も基準の緩和が販売増加につながるとは考えていない」無理難題を繰り返すのも米国内の事情のためと分析する』しかし、軽自動車の優遇税制の撤廃要求に応え2016年4月から軽自動車税引き上げを決めたことでその気にさせた、と手厳しい。米国は1970年「1970年改正大気清浄法」(通称・マスキー法)を制定した。この排ガス規制法は保護主義をカモフラージュする法律だった。当時米国には安価な海外の車、とりわけ日本車が輸入されるようになり、これを排除する正当な理由としてマスキー法が持ち出された。米国の技術力は世界一、厳しい規制を設ければ日本は達成できず、輸入は出来ないであろう、との目論見であったが、日本は1972年ホンダが CVCC、マツダがロータリーエンジン+サマルリアクター、スバルが SEEC-T システムで米国メーカーに先んじてマスキー法をクリアする。マスキー法は排気ガスの成分を1970年当時の 1/10 にする技術的困難さをともしう法律であったため、ビッグ3はロビー活動により数度にわたり延期、規制値の緩和が行われ、この法律の基準がクリアされたのは1993年である。学ばないビッグ3を抱える米国政府は往生しているようだ。(立命館経営学「環境配慮型製品の普及—マスキー法を通じて見た日米の自動車メーカーの戦略—」より)】

Zoom・じじいたちとのゴルフ同行記

毎年、同期入社の者とゴルフコンペを続けて9年になる。今年も幹事から案内状が届いた。電話で腰痛を理由にゴルフは勘弁してもらおう代わりに、ゴルフカートの運転手を申し出た。これまで何とか110前後を維持していたが、昨年ついに130叩いた。数年前からゴルフ仲間に「止めました」と宣言しても、年1回のこのコンペだけはと思いながら、毎年1週間前から打ちっ放しに通って面目を保っていたのに、130では同伴者の足手まといで迷惑をかける、との思いで止めた。

5月12日、お馴染みの顔ぶれに新顔1人が、びわ湖のホテルに集まった。第1回に揃ったメンバー6人のうち、亡くなった者やゴルフを止めた者の代わりに、幹事のゴルフ仲間であれこれにも顔見知りの同期入社、中途退社の者が参加した。メンバー補充に幹事さんは苦労している。

昨夜は賑やかに懇親会、きょうのプレイは琵琶湖レークサイドゴルフコース。ここは大阪支店に勤務していた頃、会社のコンペでよく利用した。ある年、開発課長がゴルフを始めて「筆下ろし」がこのゴルフ場だった。5組のコンペで1組目、しかも打順決めのスティック1番を引いてしまった。五十の手習いでゴルフを始めた真面目な課長が、19人の観衆が見守るなかでの初打席はプレッシャーが掛かる。ヤジが飛ぶ、手が震えてティーにボールが乗せられない、何回も繰り返すうちに、ヤジが止んでシーンとなった。彼にゴルフを勧めた購買課長が走り寄ってそっとボールを置いたが、結果は空振りだった。そんなことを思い出した。

先発は補充組の3人、ドライバは見事に前へ行った。ゴルフを初めて5年目の新参者は途中チョロチョロしていたが、順調に旗に向かっていく。次は古参組3人、カート運転は私、カートにはGPSナビが搭載されており、ホールやグリーン図、カートからグリーンエッジまでの距離が表示される。さらに各自のスコアをホールごとに打ち込めば、カードを使う必要はないし、今日の競技方法ダブルペリアには便利である。

「おい、(GPSの表示は)グリーンまでなんぼ?」「100」、「ホールの位置は?」「左真ん中」、「9番でいいか?」「・・・」、少々ぼけているので1番手下げた方が、と思ったが運転手の身、黙っていた。案の定、力が入ったのかダフった。また、別のホールでは「おい、ヤーデージは150だけど、遠いなあ、ここと並行なところまでカートを進めて」「はい」、「距離は?」「148」、「やっぱり、遠く感じるなあ」「眼が遠いのと違う!」、取り出したアイアンの5番では届かなかった。幹事! 年を取れば体力は衰え、距離が落ちるのは当たり前、素直に番手を下げて軽く振ったらどうですか。

後ろの組が追っかけてきた。2人だから当然だろうと、わが組の3人は意に介さない。フェアウェーではクラブを3本持って走れ、とかグリーンに近づいたらパターも一緒に持て、などとキャディーのように急がせる気はない。ゆっくり歩いて、ゆっくり素振りし、打ち終わったら、しばらく玉の行方を見て、ゆっくり歩き出す、まるでスローモーションを多用するサム・ペキンパー監督の西部劇を観ているようで面白い。

結果は優勝 GROSS 92・HDCP 16.7、準優勝 113・36.0、頑張ったのは OUT 62. IN 42. GROSS 104・HDCP 25.0 だった BB 賞、OUT、IN の差は 20 打とは立派、ビリはゴルフ経験5年の新人が121、130は誰も越えていなかった。